

キウイ・フルーツのカルテック施肥例 (10アール当り)

| 時期 | 目的 | 資材と施用法 |
|--|---|---|
| (11月) 収穫後、 落葉前 元肥 | 1年分の基本となる地力作り 元肥の一部は落葉時(12月上旬)に動く根に吸収され、大部分は休眠期に土壤微生物によって醗酵状態にされて、春から吸収されます。 | ラクトバチルス 600グラム …排水・通気よく、深層まで肥沃な土に 有機物・堆厩肥(牛糞など) 1~2トン (または 米ヌカ 150kg 以上) 硫安 60kg (~80kg) ※複合有機肥料を使う場合は チツ成分 12kg~16kg。 ※特に痩せ地で、堆厩肥・有機物が不十分な場合、 硫酸カリ20kg 追加。 畑のカルシウム 40kg (~60kg) ※キウイ・フルーツは多量のカルシウム栄養を要求します。総計では硫安とカルシウムを同量施すのですが、カルシウムは春に多くします。 ※土壌pHを、深層まで測定して、カルシウム量を決めて下さい。 上記4種を同時に施して、耕します(土と軽く混ぜる)。 施肥位置は 樹の近くだけでなく、園全体に広く全面散布します。 落葉は必ず その園に鋤込む。枝(ツル)は なるべく切断して鋤込む。 |
| (2月) 根が動き、 樹液が流動 (溢液期) | 2月後半、わずかに地温が上昇する頃には、春根が動き始めます。 切り口から樹液(導管液)が出るようになるので、それ以前に母枝の剪定を終える。 動き出したら、 すぐに… | 樹液が動き出したら、必ず根の様子を見て 土のpH・ECを測定し、3月の発芽より前に、春の新梢のための栄養分を施します。 濃縮酵素液 3リットル 灌水 …根を強く動かし、深く張らせる。これは根が動き出す頃でもよい。 硫安 10kg (~20kg) 畑のカルシウム 20kg (~40kg) ※硫安とカルシウムは同時に散布。キウイ・フルーツは根に障害が無ければ 樹勢が強いので、春の施肥は カルシウム多め の方が良い。 ※普通は発芽後(3月)に追肥をしますが、早く施肥しておく方が根中心の生育になり、確実に効いて 調節も容易です。カルシウムは葉の健全化と花の受粉・種子の多さ・初期の果実形成に効果を発揮します。 |
| (3月後半) 発芽期 | 発芽は強く、太く、徒長しないこと。 | ※芽の周辺や枝の分岐部が変色し 粘液が出る「カイヨウ病」症状は、栄養生理的には根圧不足、樹液流動の停滞・詰り、リン酸過剰の場合が多い。上欄の早めの施肥はこれをかなり解消します。 |
| (4~5月) 新梢伸長期 | 新梢は弾力があり折れにくいこと。 | 芽カキして新梢を揃える(1㎡に9芽残す)。 もし暴れ気味なら、 カルテックCa液状 500倍 葉面散布 (雄樹にも) |
| (5月下旬~) 開花期 | (昆虫受粉、または人工授粉) | 摘蕾して枝の中部の花を残し、受粉。 ※蕾の落下や「花腐れ」症状は ほぼカルシウム不足で、土のpHが酸性の場合に激発します。また花や幼果の「灰色カビ」もカルシウムで軽減。 |
| (6月~7月) 肥大最盛期 | 果実の肥大が速いので、早めに酵素液で細胞を伸ばし(果実を縦に伸ばさず)、その後で追肥(あまり遅くならないように) | 開花10日後、遅くとも開花30日までの間に 摘果 (1筋1果、1枝4~5果) 摘果の直後に(遅れずに)、果実肥大のための追肥をします。 ① 濃縮酵素液 3リットル灌水 、または 500倍 葉面散布 (液が使いにくければ マンゾク粒状 20kg) ② その後、3日~10日のうちに、下記2種を同時施用。 硫安 10kg (~20kg) 畑のカルシウム 20kg (~40kg) ③ (特殊な方法として、その後7日で 硫酸カリ10kg ・転流促進) 開花後50日、8割が肥大します。枝は軽く摘芯・誘引して姿を整える。 |
| (8月~9月) 夏期 | (肥大・生長を 持続、安定期) | 充分な水が必要です。灌水をしっかり行う。 もしも深根に異常が見えたら 濃縮酵素液 3リットル 灌水 か、 葉面散布 |
| (10月) 果実充実期 | 養分の転流と、果実の充実・仕上げ 半月間隔 2回 | カルテックCa液状 500倍 葉面散布 …果実を重く充実させる カルシウムが効いていると…… 11月、霜害を受けない内に収穫しますが、ある程度の霜には強くなる。低温貯蔵、出庫、追熟の時にイタミが少なく、果実の軟腐病も出ない。高糖度でも保存性が良い。 |

雌品種:ヘイワード、雄品種:マツア

【土壌pHについて】キウイ・フルーツの好適pHは 経験上、6.0~6.5です。(原産地の中国やニュージーランドでは もっと高pHで、6.5~7.5が好適と言う人もいますが。)1970年頃からミカンや稲の転換作物として推奨されたために、キウイ・フルーツの園は酸性(pH:5.5以下)のことが非常に多い。石灰類で表層だけは中和してあっても、10cm以上掘ると極端な酸性で 根が深く入らない例がよくあり、**土の酸性中和がキウイ・フルーツ栽培の成否を決める最大要因**となっています。ともかく先ず、園のあちこちを掘り返して pHを調べて下さい。ひどい酸性の場合は石灰を散布してなるべく耕す。深層まで確実に中和するには 畑のカルシウムを 上記標準の倍量以上 連用して下さい。特に斜面で水流が集中する場所は流亡が激しいので、カルシウムを多めに散布するよう気をつけて下さい。排水は良い所で栽培しているはずですが、もし排水が悪い場合、高pHでもカルシウム不足の事が多いので注意。